

令和5年度 学校評価報告書

小27 長崎市立福田小学校

1 教育目標

「夢や願い」を叶える学校～福田の子 みんなで育て みんなで育つ～

2 学校経営方針

めざす学校像【地域の教育力を活かす学校】

- 子どもの良さを見つけ伸ばす学校
- 夢を育み学ぶ力をつける学校
- 地域との絆を紡ぐ学校

めざす児童像【夢・笑顔・汗いっぱいの子ども】

- 課題を見つけ、自ら学ぶ賢い子ども
- 広い心をもった、自分や友達の良さに気づく優しい子ども
- 健康を意識し、体を鍛える元気な子ども

めざす職員像【教育愛と使命感に満ちた職員】

- 人間性豊かな職員
- 子どもに寄り添い共に動く職員
- 研修に努め向上心をもつ職員

3 重点目標

- (1) 人権感覚を磨き、いじめや差別がなく誰もが気持ちよく生活できる学校を目指す福田っ子の育成。
 - ・「さん」付けの呼名 ・ソーシャルスキル
 - ・正しい言葉遣いや生活上でのマナー
 - 「やりたくても やってはならないことがある
 - やりたくなくても やらなければならないことがある」
- (2) 夢の実現に向けたビジョンをもたせ、実現に向けてねばり強く取り組む心の育成。
 - 「やれば できる」「あきらめない」
- (3) 創造性を育むための基礎学力と思考力・判断力・表現力の育成及び学力の向上。
 - ・「『分かる授業』のための12箇条」を取り入れた楽しく力が伸びる授業実践
 - ・ICTを活用した授業実践 ・GIGAスクール構想の推進
- (4) 地域・保護者と共に「開かれた学校づくり」の推進。
- (5) 職員のワークライフバランスを考慮した働き方改革の推進。
 - ・時間の効率的な使い方 ・自身の健康 ・同僚性を発揮したチームワーク

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	93	93	100	校務の縮減・効率化等の業務改善については、数年前からの働き方改革における積極的な業務改善を行ってきたのに比べると、今年度は、新しい取組が少なかったことで肯定的割合が低かったと考えられる。残業時間の短縮を行う上で、引き続き、機能性を高めるとともに業務の平準化を図っていかなければならない。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	93	96	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			93	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			67	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	93	85	60	今年度初めに、全職員で子供たちや保護者に寄り添うことの共通理解のもと、努めていった。これまで大きな問題もなく、落ち着いた学校生活を送れていることに安心している。 全体的に児童・保護者共に肯定的割合が高まっていることから、学校の取組について一定の評価をもらえたかと安堵している。さらに子どもにとって安心できる学校となるために、心の教育の充実を図ってきたい。 教職員の肯定的割合が低くなっているルールやマナー、挨拶については、「まだできる」という期待の表れだと感じる。子供たちを励ますとともに、寄り添いながら、今後も好循環が生まれる指導を行っていく。
		挨拶をよくしている	95	80	67	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	92	84	93	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93	92	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	91	86	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	91	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	92	87	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95	89	87		

確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	91	96	100	GIGAスクール構想における一人一台端末の整備と家庭への持ち帰りが日常になったことで、家庭学習の習慣化は高まっていると感じるが、デジタルの使用については、教職員も保護者も課題を感じるところであり、今後も改善を図りながら取り組んでいく。 これからの社会環境の変化に対応できる資質を育てていく上でキャリア教育の充実を更に図る必要がある。
	学習指導 ・教育課程	わかりやすい授業を行っている	96	94	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	94	80	80	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	98	87	93	
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	94	100	3年前からのコロナ禍にあって、児童の体力の向上が課題であったが、今年度の重点的な取組が浸透し、意識は高まっている。しかし、体力調査の数値としては、体力が向上しているところには至っていない。今後も継続して取り組む必要を感じている。 早寝・早起き・朝ごはんについては、保健指導、育友会活動との連携で意識の高まりを感じる。さらに家庭と連携を図っていく。
		早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	87	84	93	
	体力向上	体力向上に努めている	88	92	93	
	食育	食に関する教育活動を行っている	97	92	93	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96	95	93	本校と地域との連携が十分で、毎月、地域のパトロールを行ったり、安心安全メールを活用して安全面の周知を図ったりしていることで安全管理については一定の評価を得ている。 コロナ禍も終わり地域と連携した行事が、復活しており、できる限りの連携を図りながら信頼される学校づくりに努めていく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	90	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	76	99	93	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	88	94	87	教育環境については、一定の評価が得られた。今後も、施設の老朽化にあっても効率化を図りながら環境整備に努めていく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			93	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- アフターコロナの影響で、世の中が制限から一気に解放されていく中で、児童が不安定になる恐れがあったが、教職員が児童一人一人の理解、保護者理解に努めてくれた。休み時間には、児童と一緒に遊ぶ教職員も多く、児童の心の安定につながっている。
- 学校行事や地域行事がコロナ前の状態に戻っていく中で、業務の改善に対する教職員の負担感は、増していると考えられる。それは、行事等を運営する上で、以前のノウハウが伝わっていなかったり、限られた時間の中で多くのことを処理しなければならなくなったりしていることに起因する。残業時間の短縮を行う上で、引き続き、機能性を高めるとともに業務の平準化を図っていかねばならない。
- 生活におけるルールやマナー、挨拶など、生活面での児童と教職員の評価のずれは、コロナ禍の影響があることは否めない。数年にわたって、制限の中で静かに生活してきたことを考えると、ルールやマナー、挨拶については、もう一度丁寧に教えていく必要がある。

6 学校関係者評価

- アフターコロナでいろいろな活動・行事等が以前の状態に戻っていく中、教職員の負担感が増しているように感じる。効率的な業務の見直しを行うとともに、何事もゼロからスタートすることは、関わる人のやる気を生み出す。そういう機会を多くもつとよいのではないかと。
- コロナ禍で、4年間制限の中で過ごしてきたことを考えると、ルールやマナー・挨拶などできないのが当然である。子どもたちに自信を取り戻させるためにも、一人一人に寄り添った丁寧な指導が必要であるとを感じる。
- 学校の現状を考えると、地域の役割が重要となってくると感じる。今後、福田地区にふれあいセンターの開設が予定されている。学校と地域が協働による子育て・教育を行っていけるような支援体制づくりを行う上で、ふれあいセンターがコーディネーター役として機能していくことに期待している。
- 保護者にも今回の学校評価の結果についてしっかり精査してもらいたい。今後、学校・家庭・社会(地域)が一体となった支援体制づくりが必要である。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 教職員の負担感を解消していくために、学校としてこれまでの当たり前にメスを入れ、業務の見直しを行っていく。
- 福田地区には地域という大きな財産がある。学校、保護者、地域が協力して子どもを育てる学校のあり方について考察し、よりよい学びができる学校にしていく。